

コミュニケーション力を高める学習指導

－異学年交流授業を通して－

保健体育科 表 洋 一
佐々木 久美子

1. テーマ設定の理由

本校保健体育科では、発達段階を考慮した「確かな学力」、「問題解決力」のキーワードを受け（本紀要 p. 1）一昨年度の研究では「仲間とのかかわり合いのもとでの学習活動の中で培っていく思考力、表現力」、昨年度は「生涯にわたって運動に親しむための問題解決力の育成」と題し研究を進めてきた。

高度なトレーニングを積んだ競技経験豊かなアスリートならば他者との関わりがなくとも自分のボディコントロールしていくことは可能である。しかし、学校での体育学習を進めていく場面、生涯スポーツを楽しもうとする場面や体力を向上させ健康の保持増進を目指そうとする場面では、仲間とのかかわり合いの中で運動を進めていかなければ進歩や向上は見られない。多くの運動情報は、視覚的な情報として伝わるものがほとんどである。仲間と共にかかわり合いながら活動していく時に、運動課題ができていく状態、あるいはうまくできていない様子（タイミング、リズムなど）を相手にいかにわかりやすく伝えるのか（感覚を論理的に分析しわかりやすく伝える力）、また、運動者は相手が自分に何をどう伝えたいのかを理解すること（相手の心情を推し量る力）が運動課題の向上や進歩につながる。すなわちコミュニケーション力がとても大切になってくる。

体育での学習活動では、常に仲間とのかかわり合いを持ちながら学習を進めていかなければ授業は成立しないと言っても良い。そこで、本年度は仲間とのかかわり合いを通常の学習形態の同学年から一歩進め、異学年交流で行うことで、コミュニケーション力を高める学習指導と題した研究テーマを設定した。

2. 研究を進めるにあたって

(1) 今までの異学年交流に関する調査（4月下旬実施）の結果から

異学年交流学習を実施するにあたり生徒に事前調査を行った。集会やスポーツ大会などの特別活動等での異学年との交流はほとんどが経験している。しかし、授業の形態では1, 2時間程度の短時間の交流はあるものの、まとまった時間の単元を通して経験したものは附属小学校の複式学級経験者以外ほとんどいなかった。

また、生徒達が今までの異学年交流時に感じたこと、これから期待することや不安なことをまとめてみると下記のような意見があった。

上級生の立場からでは

肯定的感想（良かったこと、うれしかったことなど）

- ・説明したことが理解してもらえたこと。
- ・「ありがとう」と感謝されたこと。
- ・協力して物事が成し遂げられた充実感があったこと。
- ・仲良くなれたこと。
- ・自分に自信がもてるようになった。

否定的な感想（いやだったこと、不安なことなど）

- ・わかりやすく説明や教えることができるか不安。

- ・指示を聞いてくれないで勝手な行動をされる。
- ・自分より能力的に高い生徒に対して教えることができるかどうか不安。
- ・説明したことをわからないと言われたらと思うと不安。

下級生の立場から

肯定的感想（良かったこと、うれしかったことなど）

- ・親切にしてもらえたこと。
- ・わかりやすく説明してもらえたこと。
- ・丁寧に教えてもらえたこと。
- ・わかるコツやポイントを教えてもらえそう。
- ・部活以外の先輩と仲良くなれそう。
- ・自分たちができないような技を見せてもらえそう。

否定的な感想（いやだったこと、不安なことなど）

- ・いろいろな無理を言うてくるのではないかと不安。
- ・緊張してうまく話ができない。
- ・質問や意見が言いづらい。
- ・やる気のない上級生がいたらおもしろくない。

(2) 配慮が必要と考えられること

学力以上に体育の授業において体力面や能力面で下級生との逆転現象が生じることが予想される。上級生としての自尊心が傷つき挫折感を味わったり、自信喪失となったり、意欲の低下になり本来の学習目的が達成できない点が懸念される（参照本紀要p.8）。また、アンケート結果からもその点で不安視する生徒も少なくない。そこで、グルーピングや役割分担（話し合いの中での司会、記録係り、知識面を生かせる審判など）を工夫し体力面や能力面において逆転現象が起きても上級生の得意とする面で活躍できる場を設定し学習を展開していくように配慮する。

(3) 評価について

本紀要P.8のコミュニケーション力を高める評価についても述べられているが、保健体育科では授業の終わりにコミュニケーション力についての評価観点を入れた形成的評価を行い、コミュニケーション力の評価活動を行ってみることにした。（体育授業についての調査13～15）初めての試みのため、評価の観点についてはいろいろと議論の余地はあるところではあるが、本年度は試行段階として実施してみることとする。

3. 体づくり運動を通じた授業実践から

(1) 体づくり運動を選んだ理由について

体づくり運動のねらいとして

- ・自己の体に関心を持ち、自己の体力や生活に応じた課題をもって運動を行い、体ほぐしをしたり、体力を高めたりすることができるようにする。
- ・体づくり運動に対する関心や意欲をもって互いに協力して運動ができるようにする。
- ・自己の体力や生活に応じて、体ほぐしの行い方と体力の高め方を工夫することができるようにする。

の3点があげられる。また、学習を進める中で、仲間と協力して互いに補助しあい運動に取り組んだり、自己の体の様子ばかりでなく仲間の体の状態や変化に気づくなど、仲間とより多く関わることで自分を見つめ相手を気遣う場面が多く存在する。このことは、コミュニケーション力の「他者理解力」相手の心情を押し量る力に他ならないと考える。

一方、体づくり運動では、他の領域のように一つの運動課題ができる、できないといった運動能力の差が明確に現れにくいことから、運動能力に自信のない生徒（上級生）にとっても楽しく、意欲的・積極的に取り組める領域であると考えられる。

以上の理由により、体づくり運動が、異学年交流に取り組みやすい単元ではないかと考え、まずはじめに実施することとした。

(2) 本校生徒の実態

単元開始前の運動有能感検査

① 運動有能感検査から（本紀要 p.97）

右記の表は単元前に運動有能感の調査を行った結果である。各因子は以下項目で構成されている。「身体的有能さの認知」とは、自己の運動能力、運動技能に

	1年生	2年生	全体
身体的有能さの認知	10.40	12.35	11.38
統制感	13.05	14.95	14.00
受容感	13.60	14.35	13.98
総合	37.05	41.65	39.35

に対する肯定的認知に関する項目。「統制感」とは、自己の努力や練習によってどの程度コントロールできるかの認知度である。「受容感」とは、運動場面で仲間から受け入れられているという認知に関する項目で構成されている。直接比較することは非常に危険ではあるが、参考として京都教育大学附属桃山中学校でフィットネス教育を実施したときに行った有能感検査の結果と比較した場合、受容感において本校生徒は、仲間とのかかわり合いが薄いと感じているようである。

② 新体力テストの結果から

本校生（2006年）と全国平均（2004年）

		握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	1500m走	50m走	立幅跳	ハンドボール投げ	
1年生	平均値	本校生徒	24.37	22.29	41.95	48.10	428.25	8.77	182.33	17.42
		全国平均	25.03	23.46	38.94	47.90	423.31	8.51	183.15	19.35
	標準偏差	本校生徒	5.86	3.75	8.94	5.36	46.29	0.80	19.86	4.66
		全国平均	6.20	5.44	8.85	6.24	57.36	0.76	23.66	4.62
	標本数	本校生徒	63	68	64	63	65	65	66	66
		全国平均	1337	1401	1128	1391	735	1387	1380	1396
2年生	平均値	本校生徒	31.39	29.75	42.98	54.47	406.92	8.27	205.44	23.20
		全国平均	30.97	26.93	43.50	51.67	383.68	7.94	200.36	22.11
	標準偏差	本校生徒	7.14	4.49	9.48	5.32	49.53	0.69	19.03	5.32
		全国平均	7.27	5.86	9.82	6.57	52.15	0.66	23.67	5.10
	標本数	本校生徒	65	65	65	64	63	77	64	60
		全国平均	1350	1409	1409	1399	725	1392	1385	1404

1年及び2年の全国平均との比較（t-検定）

	1年		2年	
	t-値		t-値	
握力	-0.823	ns	0.457	ns
上体起こし	-1.747	ns	3.831	**
長座体前屈	2.648	**	-0.414	ns
反復横跳び	0.244	ns	3.356	**
1500m走	0.674	ns	3.402	**
50m走	2.652	**	4.260	**
立幅跳	-0.276	ns	1.690	ns
ハンドボール投げ	-3.306	**	1.617	ns

※ ns：有意差なし，*：p<0.05，**：p<0.01

一般的に附属生は、同年代の子供たちから見ると体力的に劣ると思われているようである。しかし、実際には優れているものもあれば、劣っているものもあり皆が思っているほどすべての体力的要素において劣っているわけではない。(表 1年および2年の全国平均との比較)

体育では、「ねばり強さ」「苦しいこと、辛いことを乗り越える強さ」など心的な逞しさをはぐくむ一面もある。体力テスト実施時には、1500m走の測定前に1,2年生ともに「遅くてもいいわ」、「しんどいのがいやだから適当に走ろう」など挑戦する気持ち、立ち向かう気持ちよりもネガティブな声が多く聞かれた。数値に表れない心的なねばり強さにかけている面があると考ええる。

(3) 他者理解の能力と自己表現の能力を育成するための体づくり運動の授業を行う上での方向性

他者理解の能力と自己表現の能力を育成するための授業づくりの方向性(本紀要p.5-6)として6項目の方向性が示されている。本校保健体育科ではそれらを以下のような考え方に置き換えて授業を行った。

① 授業を知識伝達型だけでなく、学び合いの場へと転換する

中野は(2001, P.11)『『講義など一方的な知識伝達スタイルではなく、参加者自らが参加・体験して共同で何かを学びあったり作り出したりする学びと創造のスタイル』を『ワークショップ』』と定義している。これは、本紀要の授業の方向性(本紀要p.5-6)の(1)項に他ならない。また、鈴木は(2002)ワークショップ形式を導入した「体力をたかめる運動」の実践において効果があると提案をしている。そこで、この体づくり運動の単元ではワークショップ形式の授業を導入することとした。

② 話し合い活動の積極的導入

生徒自らが考えた各種運動を持ち寄り、異学年のペアとなって運動を作り上げていく場を設定をするため話し合いや共同での活動をするのが多くなると考えた。

③ 学びの自覚を高め、受動的から能動的な話し合いへと導く

生徒自らが高めたい体力を考え選び、同じ目的を持った生徒がグループとなることで自己実現しようという積極的な意志が生まれ能動的な話し合いや活動になると考えた。

④ 学び合いの中から知識が形成されていくような授業の流れ作りを考える

個の考えた運動→お互いのアイデアを持ち寄って考えた運動→グループ内での発表→全体で発表。という流れで授業を行い情報をシェアすることで新たな知識やアイデアが生まれると考えた。

⑤ 解決できない課題の中で、試行錯誤を繰り返す試練を与える授業を考える。

一人、ペアあるいはグループになって、なかなかアイデアがでてこない場合こちらの関わり方として、指導をするのではなく、賛同的な共感的関係を中心と考えた支援を行うこととした。

⑥ 「多数」と「少数」の相互作用による新たな価値や意味の創造を目指す授業を考える。

「多数」＝「正解」と「少数」＝「間違い」という考え方では思い切った意見交流ができなくなるので、仲間同士で話し合われ作り上げた運動の全てが「正解」であるという考えの基で活発に意見交流が行える学習環境を設定する。

(4) 授業実践

① 単元計画

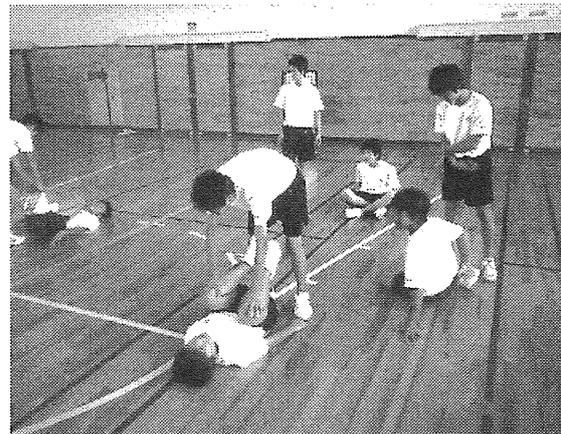
体づくり運動単元計画

		体育に関する知識	
1次	オリエンテーション	体力の意義と自らの体力(4月のデータ) 「なぜ運動をするの?しなければなら ない?」 運動の意義	学習内容, 学習の進め方を知る
2次	Let's exercise	体力の意義(筋力, 瞬発力, 持久力, 柔 軟性, 調整力)の高め方	体ほぐし, 体力を高める運動をやってみ よう
3次	Let's make exercise	豊かなスポーツライフに向けて	体力チェック 自分たちで体力を高める運動を考えよう
4次	みんなでやってみよう		自分たちの考えた運動をひろめよう

② 授業の様子

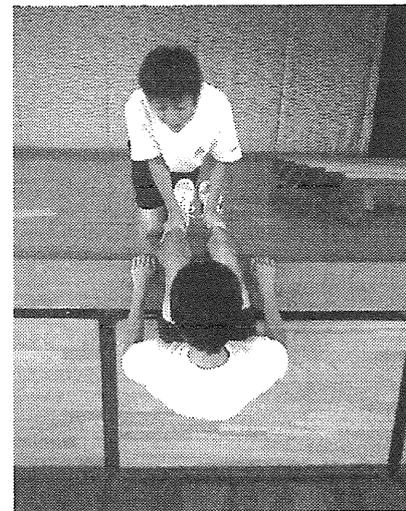
2次: Let's exercise から

体育での初めての異学年交流授業ということで、戸惑いや緊張している様子がかがえた。心身共にリラックスしよりよく交流するために、体ほぐしをおもに行った。はじめは、お互いが無言であったり小さい声でしかカウントできなかった。そのうち「痛くない?」、「もうちょっと強くていいぞ」、「まだ、大丈夫や」などの自分の意思表示している場面がいろいろなペアの間で見られるようになった。



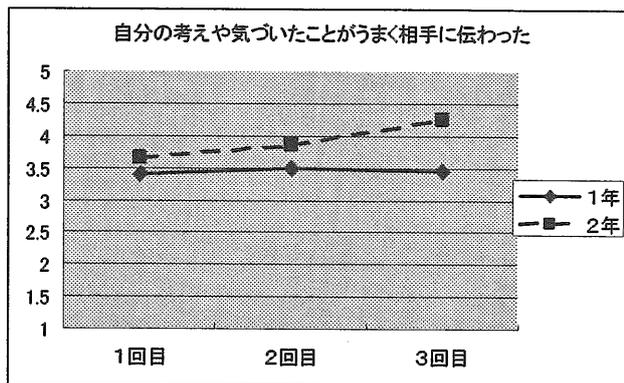
負荷のかけ方によって同じ運動でも、強度が違うことを学んだ後、「腹筋8分割!」と題して腹筋運動に限定してペアで運動を考

える場を設定した。ペアで話し合いながら、今までの経験や提示されたものを例として、また、学習した負荷のかけ方なども工夫し、いろいろな腹筋を鍛える運動が提案された。



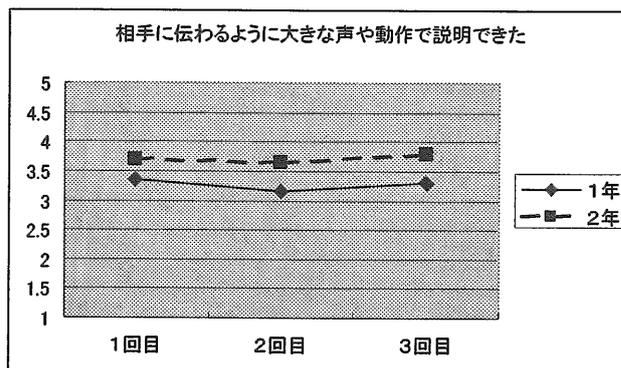
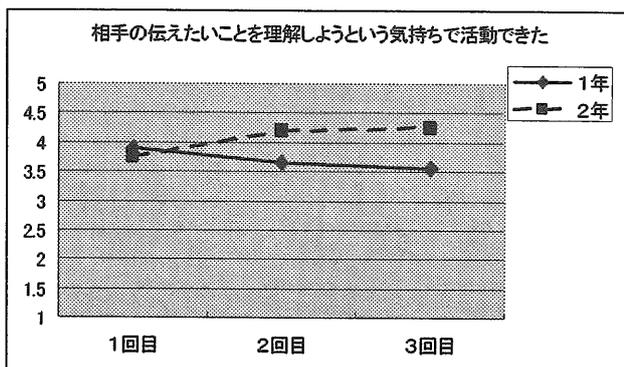
③ コミュニケーション力の評価について

参考程度に3時間の授業を終わっての結果を載せておきたい。まだ、十分な時間を費やして授業を行っていないため、この段階では何とも言えないが、いずれの項目についても2年生において高いス



コアを示している。運動をに対してあまり自信を持っていない生徒に「1年生と一緒にするの授業はどうか」と質問したところ、「やっぱり上級生やし恥ずかしいことできんし、リードしてやらんと」という返答が帰ってきた。

これからどのような変容が見られるのか授業を進めていきたい。



4. まとめ

紀要の原稿の途中ではあり、まだこの単元は進行中である。これからコミュニケーション力がどのような高まりが見られるかは不明である。しかし、授業が進むごとにお互いが、自分が高めたい力に向け、互いのアイデアを出し合い協力しながらいろいろな運動を作り出したり、実施している姿が見られるようになった。また、上級生が少しずつではあるが、活動の中心として下級生をリードしている姿や下級生が「さすが先輩」と感じる場面もみられる。本紀要 p. 7 に記載されている、異学年交流での効果ありと考えられる、「上級生の誇りや使命感が感じられる場面」が現段階ではいろいろな活動の中において見られるようになってきている。

体づくり運動は、運動能力に差があってもその差を感じさせないで活動できる単元として考え、初めての異学年交流授業として行った。今後は、ほとんどの生徒が中学校で初めて学習する柔道の単元で、運動経験・能力の差が小さく取り扱いきやすい単元と考え、数時間であるが異学年交流を実施したい。また、運動能力の差があると考えられる単元においても上級生がいきいきと活動できる工夫を考え実施していきたい。なにぶん初めての試みで課題もいろいろと見えてくると思われるが、本研究を問題提起としてとらえていただき今後につなげていきたい。

引用、参考文献

高橋健夫(2003) 体育授業を観察評価する pp.27-28明和出版

井谷慶子・北川純一他(2002) 中学校体育へのフィットネス教育の導入とその可能性 京都教育大教育実践研究紀要第2号 p.85

中野民夫(2001) ワークショップー新しい学びと創造の場ー 岩波新書

鈴木直樹, 塩澤榮一(2006) ワークショップ形式を導入した「体力を高める運動」の実践提案 体育科教育学研究22(1): 25-34

運動有能感に関する調査

この調査用紙には、運動についての文章があげてあります。それぞれの質問について、自分にあてはまると思う番号に1つ〇をつけて下さい。この調査は、あなたの成績とは関係ありません。

()年()組()番(男・女)

「よくあてはまる」……………5

「ややあてはまる」……………4

「どちらともいえない」……………3

「あまりあてはまらない」……………2

「まったくあてはまらない」……………1

1. 運動能力がすぐれていると思います。	……………	5	4	3	2	1
2. たいていの運動は上手にできます。	……………	5	4	3	2	1
3. 練習をすれば、必ず技術や記録は伸びると思います。	……………	5	4	3	2	1
4. 努力さえすれば、たいていの運動は上手にできると思います。	……………	5	4	3	2	1
5. 運動をしているとき、先生が励ましたり応援してくれます。	……………	5	4	3	2	1
6. 運動をしているとき、友だちが励ましたり応援してくれます。	……………	5	4	3	2	1
7. 一緒に運動しようと誘ってくれる友だちがいます。	……………	5	4	3	2	1
8. 運動の上手な見本として、よく選ばれます。	……………	5	4	3	2	1
9. 一緒に運動する友だちがいます。	……………	5	4	3	2	1
10. 運動について自信をもっているほうです。	……………	5	4	3	2	1
11. 少し難しい課題でも、努力すればできると思います。	……………	5	4	3	2	1
12. できない運動でも、あきらめないで練習すればできるようになると思います。	……………	5	4	3	2	1

身体的有能さの認知……………1, 2, 8, 10

統制感……………3, 4, 11, 12

受容感……………5, 6, 7, 9

の項が該当する

体育授業についての調査

____月____日

()年()組()番(男・女)

今日の体育授業について質問します。次の1から15の質問に対して、あなたはどのように思いましたか。自分の気持ちに一番近い答えに○をつけて下さい。

「強くそう思う」……………5
 「どちらかと言えばそう思う」……………4
 「どちらでもない」……………3
 「あまりそう思わない」……………2
 「まったくそう思わない」……………1

1. 楽しかったですか。	……………5	4	3	2	1
2. 自分にもできそうな内容だと思いましたか。	……………5	4	3	2	1
3. 十分に運動することができましたか。	……………5	4	3	2	1
4. 深く心に残ることや、感動することがありましたか。	……………5	4	3	2	1
5. 新しい発見や知識の習得、理解の深まりなどがありましたか。	……………5	4	3	2	1
6. 運動によって爽快感を感じましたか。	……………5	4	3	2	1
7. 今日行った運動は健康や体力の向上に役立つと感じましたか。	……………5	4	3	2	1
8. 今日学んだ知識や技術は今後の生活に役立つと感じましたか。	……………5	4	3	2	1
9. あなたにとって価値のある授業でしたか。	……………5	4	3	2	1
10. 今日のような運動をまたやってみたいと思いましたか。	……………5	4	3	2	1
11. 授業とは別に運動やスポーツをやってみようと思いましたか。	……………5	4	3	2	1
12. 運動を継続することが大切だと思いましたか。	……………5	4	3	2	1
13. 自分の気がついたこと、考えたことや意見が相手にうまく伝わりましたか。	……………5	4	3	2	1
14. 相手に伝わるような大きな声や動きで説明できましたか。	……………5	4	3	2	1
15. 相手の伝えたいことを理解しようという気持ちで活動できましたか。	……………5	4	3	2	1

【今日の授業の感想】

Let's make exercise ~運動を作ってみよう~

自分で考えた運動1

自分で考えた運動2

自分で考えた運動3

二人からの提案
運動名！

体のこの部位を鍛える！

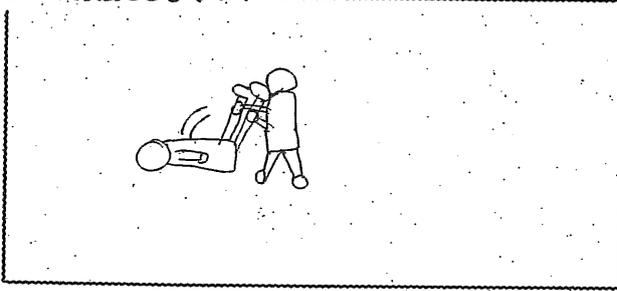
こんな方法でします！！

提案者

感想

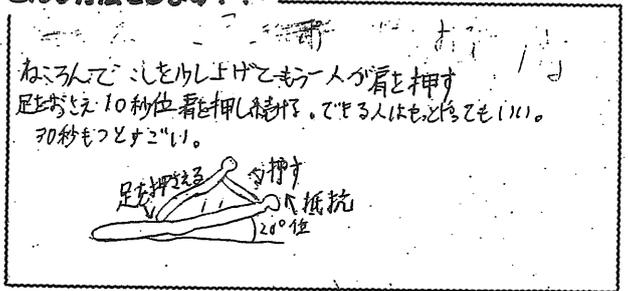
さんへ

こんな方法でします！！



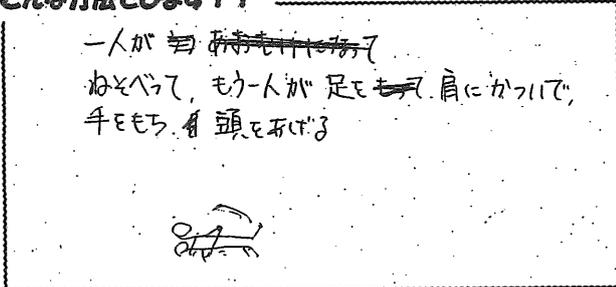
考案者

こんな方法でします！！



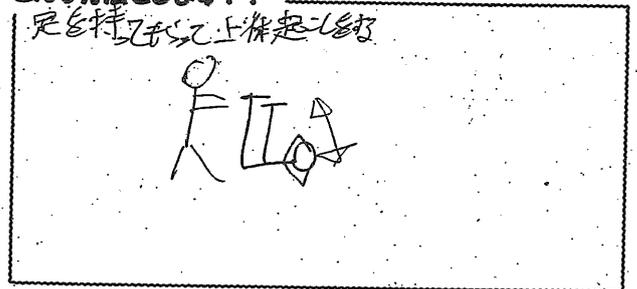
考案者

こんな方法でします！！



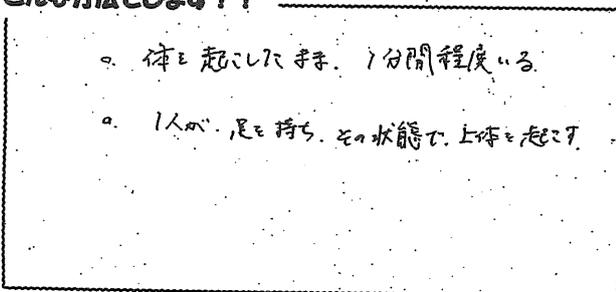
考案者

こんな方法でします！！



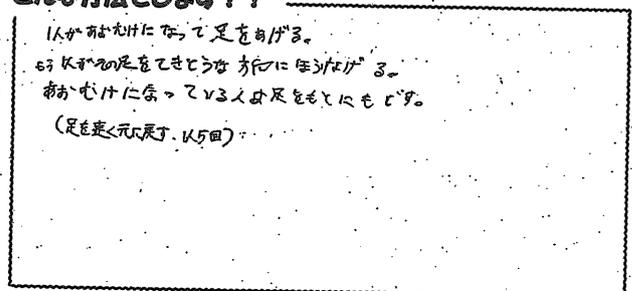
考案者

こんな方法でします！！



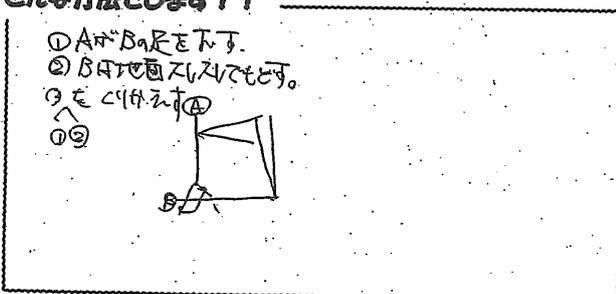
考案者

こんな方法でします！！



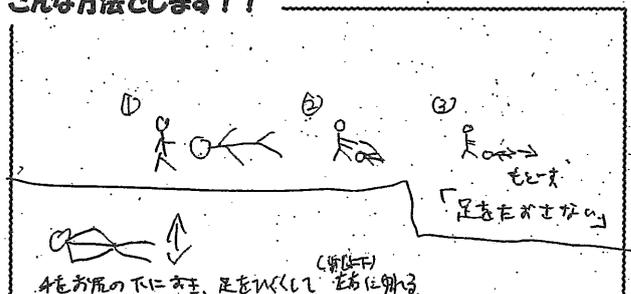
考案者

こんな方法でします！！



考案者

こんな方法でします！！



考案者

二人からの提案
運動名！

221019X9 9/Am 2

二人からの提案
運動名！

921019X9 9/Am 210

刀×さん カワハシ

ボール引き

体のこの部位を鍛える！

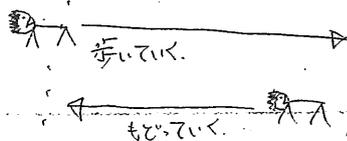
体のこの部位を鍛える！

全身

握力、手首

こんな方法でします！！

こんな方法でします！！



。ボールを片手で持ち、握力勝負



二人からの提案
運動名！

221019X9 9/Am 2

二人からの提案
運動名！

921019X9 9/Am 210

つま先歩き

バランス うてゑて

体のこの部位を鍛える！

体のこの部位を鍛える！

太もも、ふくらはぎ

うてゑ

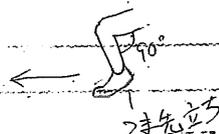
こんな方法でします！！

こんな方法でします！！

つま先立ちの姿勢膝を90°に曲げ、そのまま歩く

手の下にボールを置いて、バランスをとりながらうてゑて状態にする。

* できない人はひざを曲げず、歩く。



運動名！

二人からの提案
運動名！

合休！ 21019

背筋 with the ball

体のこの部位を鍛える！

体のこの部位を鍛える！

脚、全体

背筋

こんな方法でします！！

こんな方法でします！！

- 。赤んねて、21019
- 。30日できるとゴイ。

うつ伏せになって足にボールをはさむ。ボールを落さないように足を動かす

